

第566号

倶楽部

Naraken
Keizai
Club

一般社団法人 奈良県経済倶楽部

〒630-8215 奈良市東向中町6番地 TEL0742-23-3661 FAX0742-23-6844

HP <http://narakenkc.sakura.ne.jp/> E-mail nakeiku@energy.ocn.ne.jp

印刷所 共同精版印刷株式会社

12月号

- 「東大寺を撮る『昨今の写真事情と境内に棲む動物たち』」火曜午餐会 … ①②③
「能と奈良」火曜午餐会 …………… ④
四国（高知・佐川・道後温泉）視察研修旅行 …………… ⑤
倶楽部今月の予定・県内経済情報 …………… ⑥

東大寺を撮る 「昨今の写真事情と境内に棲む動物たち」

写真家 木村昭彦 氏

火曜午餐会第1例会を11月5日当部5階大会議室にて開催。木村氏は、常に愛情あふれる眼差しで、東大寺の四季・自然をテーマに撮影を続けておられます。

【写真は個々の感性の表現】

発想を盗まれるのは日常茶飯事。いろんな形で盗まれていきます。その中で一つ例を上げてお話ししてみたいと思います。それはこの鐘楼の隙間から朝日が差し込む写真です。

人の写真を参考にするなら良いと思います。しかし、人の発想をそっくりそのまま盗むのはどうでしょうか。写真は、個々の感性の表現。「あの人がこう撮るなら、私はこう撮る」と、自分の発想に転換していくのが写真だろうと私は思います。仮に、私が第三者だったとして、この写真から、どう自分の発想に転換していくか。それをお見せしたいと思います。私は写真は逆転の発想から生まれて来る物だと思っています。

最初から人の発想を盗もう。人真似しようとやって来るともうそこしか見えない。ちょっと横に寄りますと、先ほどお見せしたように、いろんな発想が無限に転がっているんですけどね。でも、それ

に気付かない。写真というものは個々の感性で撮るものです。他人の感性を真似しようとする则自分の感性が死んでしまいます。自分自ら自分の感性を殺してしまっているんですね。今の写真家さん、みんなこんな感じになってしまっています。ネットで調べて、或いは写真集を見て、「これは良い。これを撮りに行こう」とやって来

る。実に情けない話です。

【棟方志功の芸術】

話は変わって、私は棟方志功、みなさんよくご存知と思いますが、この方の版画が好きなんです。母が買って来た棟方志功の特集が組まれた本が最初でした。読んでみますと、ワシントン大学で



の講演の内容が記載されていました。実に印象的で、心に残る内容でしたので一部抜粋で、ちょっと読んでみたいと思います。利休の庭の話です。

『千利休が、三人のうちのいちばん若い弟子を呼んで、そこにある庭を掃除してくれ、といいました。その人は、いわれて一生懸命掃いて、庭をきれいにしました。そして利休に「先生、これでいいでしょうか?」と聞きました。利休は何も答えませんで、次の弟子に「じゃ、お前が掃除せい」といいました。次の弟子は、その前の弟子がきれいにした庭を見て、水を持ってきて、石の上にかきました。また利休は黙って、次の弟子を呼びました。それで次の弟子は、また庭を見て、そこにある木をゆすりました。そうしたら、木の葉がサラサラと水の上に、石の上に落ちました。「オー、ワンダフル!あなたはいちばんの弟子です」と利休はいいました。これは一生懸命掃除しても、きれいにするばかりではだめだということですね。やっぱりそのきれいな中に、ある趣をつけなくてはだめだということですね。一つくらい足りないところがほしいということですね。一回掃いたところを、もう一度わざとよごすんですね、葉で。そういうことだから、芸というんでしょうか、芸術というんでしょうか、特に東洋の場合の芸術というのは、厳しい、厳しい中に、本当の美が出ていることを見なくてはだめだということですね。』

本当にあった話かどうかは疑問ですが、どうあれ、芸術を語る上では、実に見事に真髄を突いていると思います。

【利休の庭の話、写真への応用】

東大寺で夕日と言いますと、みなさん、このような大仏殿の上に太陽を置く写真を思い浮かべられるかと思います。これ自体、条件が整わないと撮れない、難しい写真ではありますが、言ってみれば、利休の最初の弟子が庭を掃き清めたような写真にすぎないのではないかと思います。この時にはカラスは居ませんでした、大仏殿の屋根には、夕方になりますと、カラスがいっぱい。つまり利休の庭でいう葉っぱです。この状態で夕日を撮るとどうなるか。

まあ、このように明らかにゴミでしかありませんね。ではこれをどうやって絵にするかです。

しつこくしつこく通って撮りますと、このような現象が起きることに気付くんです。いわゆる光の回折現象です。これを利用してやる訳です。そうしますと、回り込んだ光が鳩尾を包み込む。そこにカラスを軽く遊ばせてやる。静と動。これですと、逆にカラスが居てくれないと絵にはなってくれませんね。さらに陽が沈んで、光源が細くなって来ますと、この回折現象がカラスの長い影を大仏殿の屋根に落とすんです。こうする事で一日の終わりが表現出来ます。このようにカラスは、芸術を形作る重要な要素、無くてはならない存在になることがお分かりいただけるかと思います。利休の庭でいう、一番弟子が散らした葉っぱと同じです。これが写真の世界で言う芸術だと私は思います。

【記録としての写真】

写真には、芸術だけでなく、記録を残すという一面も持ち合わせています。昔の東大寺の絵図を調

べてまして、あることに気付いたんです。ここでは二月堂を例にお話します。まずは、現在の二月堂の写真を見てもらいたいと思います。注目すべきは屋根の部分です。

14枚の絵図のうち、屋根が正しく描かれた絵図はたった一枚しか無いのです。何が言いたいのかといいますと、絵というものは全く信憑性の無い、アバウトな物だということなのです。

それに対して写真は、記録として残したい場所にカメラを向けて構図を決めてシャッターを切れば良いのです。簡単に、そのものズバリが正確な記録として残せる訳です。写真技術は江戸末期、幕末に日本に入って来ました。絵筆、墨、絵の具に変わって、それぞれの時代、時代を正確に後世に伝える、便利な手段になったのです。

【デジタルの時代になって】

ところが、デジタルの時代になって、またお絵描きの時代に戻ってしまったんですね。

誰でもが撮った写真をパソコンに取り込んで、簡単に修正、加工、合成が出来るようになりました。デザインをする、お絵描きをするという意味では、確かに便利になりました。しかし、記録を残すという意味ではどうでしょうか。

私達は明治、大正、昭和、平成とフィルムの時代に生きて来ました。要するに、"写真"は読んで字のごとく、真実を写すものだという認識の元で生きて来た訳です。ですから、写真を見ますと、今までの固定観念にとらわれ、疑うこともせずに、これは真実だと簡単に信じ込んでしまう訳です。実に危険な事だと思います。

本来の写真の芸術というのは、

特に風景写真などそうですが、何
度も通って経験を積み重ね、ノウ
ハウを蓄積し、自分の頭に描いた
風景に出会って、あるいは、思い
も寄らない奇跡の瞬間に出会っ
て、初めて芸術が生まれて来るも
のだと私は考えます。しかし、今
の時代は、ほんの数枚の写真を
撮って、それをパソコンに取り込
んで修正、加工、合成して、偽り
の絵を作り上げてしまう。いわゆ
るお絵描き、デザインの世界でい
う芸術です。写真が、絵画、彫刻
という世界と同じ範疇にあると考
えれば、お絵描きとしての芸術も
あっても良いでしょう。

しかし、写真に記録を残すとい
う一面がある以上、過度の修正、
加工、合成は危険だと思います。
今のこの時代、私が言う本来の芸
術と、お絵描きによる芸術とが、

ごっちゃ混ぜになって世間に出
回っています。第三者から見て、
その区別が付かなくなってしまう
のが私にしてみれば歯がゆ
いところです。

【東大寺境内に棲む動物たち】

奈良といえば鹿ですが、その裏
にムササビが居ることを忘れては
いけません。東大寺境内では各所
に棲み付いています。木の穴だけ
でなく、お堂の屋根裏にも棲み付
きます。例えば、南大門の屋根裏
です。

2015年のことでした。早朝に南
大門に通っていると、明るくな
ってから何かが天井裏で喧嘩を
しているような唸り声が聞こえて
来ました。さらにドドドと走る
音、ドタンという音。そして、あ

る日、いきなり黒い影がフワ〜と
飛び出して来たのです。ムササビ
でした。こんなに明るくなってか
らムササビが飛び出して来る事は
まずありません。これは何かに追
い出されたたと確信を持ちました。
観察していると、入り込んだの
はテンだという事が分かって来ま
した。ムササビとテンとのバトル
は数日続き、結局、テンはムササ
ビを追い払って自分の子育ての場
所にしたのです。テンは2匹の子
供を育てていましたが、結局、2
匹とも死んでしまい、テンは子育
てに失敗して何処かに姿を消して
いってしまいました。その後、ム
ササビが戻って来て、以前の平穏
な状態に落ち着いたのです。

東大寺境内では、このようなド
ラマが日々、各所で繰り広げられ
ているのです。

▲三菱自動車

奈良中央三菱自販(株)

本社 奈良市三条栄町3-6
TEL 0742-34-7671(代)

奈良本店
大和郡山店
橿原店
クリーンカー奈良中央店

 **奈良交通株式会社**

本社
〒630-8651 奈良市大宮町1-1-25
TEL: 0742-20-3116 (代表)
FAX: 0742-27-0727

 **大切にしています**
技術と心

株式会社 松田組
代表取締役 松田英志

〒630-8137 奈良市恋の窪一丁目十番十四号
☎ 0742-34-4351(代表)

法律問題を適切に解決するために、お気軽にお電話下さい

奈良 川崎法律事務所 検索

川崎法律事務所
TEL (0742) 22-9000
奈良市花芝町9番地の2 川崎ビル

弁護士 川崎 祥記 弁護士 前川 典彦
弁護士 片山 賢志 弁護士 大寺 健太

◆相続・遺言 ◆企業経営法務 ◆交通事故 ◆離婚
◆不動産 ◆医療法務 ◆債権回収 ◆訴訟・法律相談全般

 **奈良トヨタ株式会社**

本社
〒630-8141 奈良市南京終町2丁目269番地
毎週月曜日(祝祭日を除く)
☎: 0742-61-3301
お客様相談室 : 0120-288-770(フリーコール)

豊祝
HOSHUKU

〒630-8444
奈良市今市町405

奈良豊澤酒造株式会社
TEL 0742-61-7636
FAX 0742-61-7658

奈良中央墓園 (奈良市営 東山霊苑前)
～奈良市内に すぐ相
やすらぎの公園墓地誕生～ ・ご用命は

打谷石材(株)
ご夫婦仲良く(お墓参り)
0120-522-749

FUJITSU
電話とネットワークでお客様に安心と安全をご提案

関西通信建設株式会社

 〒630-8451
奈良市北之庄町66番地1
TEL: 0742-63-7177

人と自然を、技術でむすぶ。

奥村組
OKUMURA CORPORATION

社長 奥村 太加典

本社 〒545-0053 大阪市阿倍野区松崎町2-2-2
TEL 06(6621)1101
奈良支店 〒630-8241 奈良市高天町38-3 近鉄高天ビル
TEL 0742(22)5001

「能と奈良」

能楽師 観世流大鼓方 森山泰幸氏

火曜午餐会第2例会を11月19日当部5階大会議室にて開催。講師の森山氏は一般家庭に生まれ、大学時代に能楽に出会い、この道を志された。現在、奈良在住の唯一の大鼓方で、舞台に多数出演されながら、ワークショップや子供教室など能楽の普及に尽力されておられる。

【奈良と能楽について】

能楽は日本を代表する伝統芸能で世界最古の現存する舞台芸術です。その芸能が奈良を發祥です。能楽は明治になるまでは「猿楽」といわれ、奈良の年中行事においてもその単語が多くみられます。他の地域、東京や京都などでも猿楽と称して能楽を行うことはほとんどみられません。

能楽は謡（うたい）を中心に舞・囃子を組み入れた音楽劇でもあります。能楽は日本に伝わる故事・伝説や「伊勢物語」「源氏物語」「平家物語」などを基に演目を作っており、源義経・和泉式部・葵上・平家の武将など出てきます。

結婚式で新郎新婦が座る席は「高砂の席」といい、これは能楽の「高砂」を由来としています。

奈良が發祥とされるのは奈良にあった猿楽の劇団いわゆる座があったことに由来しています。大和猿楽四座（結崎座→観世座・外山座→宝生座・円満井座→金春座・坂戸座→金剛座）といわれています。

一般的に能楽は室町時代に結崎座にいた観阿弥・世阿弥の親子によって大成された芸能とされており、田楽や曲舞などの中世芸能の流行を取り入れています。

能楽は時の権力者に愛された芸能です。1374年、足利義満（16歳）は世阿弥が11歳の時に今熊野神社の興

行で出会いました。その芸に魅了された義満は世阿弥を庇護するようになります。一流の文化人の中で学問を学び、能楽は文学的にも優れたものとなっていきます。

義満の死後、世阿弥は苦境に立たされ、遂には佐渡に流刑されます。その苦境のなかにおいても様々な芸論書を残しており、最も有名なのが花伝書といわれる「風姿花伝」ではないでしょうか。有名な言葉としては「初心忘るべからず」「離見の見」「時分の花」などあります。

【能楽の歴史の変遷】

室町時代は世阿弥死後（1443年）以降、政情は安定せず応仁の乱以降、戦乱の時代となっていきます。猿楽師（能楽師）も畿内での活動では生活が出来ずに様々な地域へと活動の場を求めていきます。観世座は浜松の徳川家・宝生座は小田原の北条氏などとなっております。その戦乱の時代でも能楽というものは武士の嗜みとして愛されていたようです。

そして天下を統一した豊臣秀吉は能楽を愛好しました。本来、旅芸人的であった猿楽師に扶持を与えました。その際に中心に召し抱えられたのが大和猿楽四座の役者だったので奈良が能楽發祥とされる由縁の一つです。

秀吉は鑑賞だけでなく自身でも舞いました（習い事として当時から成立していたので秀吉だけが舞っていたわけではなく大名は能楽を舞っていました）。奥様の北政所に「猿楽の稽古」が忙しいという手紙も残っています。舞うだけでは飽き足らず、自分が活躍した戦話を能にしました。「北条」「明智討」「此花」などがあり太閤能といわれます（現在では現行曲になく復曲などで時々再演されます）。金春流を愛好しました。

徳川家の時代になり能楽は正式な芸能、「式楽」となります。猿楽の役者は秀吉時代から変わらず扶持をもらい將軍お抱えとして江戸時代を過ごします。徳川家は観世座（観世流）を習っていたので猿楽の筆頭と

なります。

江戸時代は厳しい統制などありましたが、この時代に能楽は古典化し新しい曲などを作るのではなくレパートリーを定め、それを研鑽するようになりました。また徳川家は元々、松平氏ですので松にまつわる演目は大事にされました。上記の「高砂」は松を題材にした演目ですので、それも影響していると思われます。

能楽を溺愛した將軍は5代將軍の徳川綱吉です。宝生流を最厚し、優れた役者を宝生座に移籍するなど、能楽の世界に大きな混乱をもたらしました。ただ能楽が隆盛したのも事実であり現在につながる演奏形式も確立されたそうです。

明治時代になり猿楽師は扶持を離れます。「士族の商法」といわれるのと同じで生活は困窮を極めたそうです。様々な流儀や名家がなくなりました。欧州視察に行っていた岩倉具視がオペラなどに負けない国の芸能として能楽に注目したことにより機運が変わります。その後、華族や財閥などの支援を得て能楽は再興されます。加賀前田公の發案により明治期に猿楽から能楽に名称が変わりました。

大東亜戦争により能楽は再び危機を迎えますが令和の時代にも続いております。

【奈良の誇り】

能楽は文学的にも優れ、当時、超一流の文化人の細川幽齋も謡曲十徳（十五徳）にて謡の魅力を謳っております。また寺子屋の教科書にも使われていました。

能の装束は絹織物の豪華絢爛なものとなっており、能面や能の楽器なども江戸時代、古くは安土・桃山時代のものを使っています。

舞台上は美術品の集まりとなっております、そのあたりにも注目して頂けたらと思います。

能楽は様々な所で上演されています、奈良の誇りとして皆様にも親しんで頂けたらと思います。



四国（高知・佐川・道後温泉）視察研修旅行

文化啓発委員会は、奈良交通バス特別車両「四神シリーズ」の「青龍」（青色）をチャーター。往路は明石海峡大橋・淡路島を経て徳島から四国へ入り、高知、愛媛を観光。復路は今治から「しまなみ海道」を経て広島県尾道から奈良へ帰るコースで、参加者25名は、2泊3日の長距離バス旅行を堪能した。

[10月24日]

- ①昼食は鳴門で鯛御膳
- ②高知県立牧野植物園見学（NHK朝ドラ「らんまん」の主人公・高知が生んだ「日本の植物分類学の父」牧野富太郎博士の業績を顕彰して開園された約8haの植物園）
- ③夕食はホテルチェックイン後、貸切路面電車ではりまや橋近くの土佐料理店へ。高知の日本酒と名物カツオのたたきに舌鼓

[10月25日]

- ①土佐が生んだ幕末の英雄、坂本龍馬像が立つ桂浜見学
- ②牧野富太郎博士のふるさと佐川町。まち歩きガイドの案内で、伊藤蘭林の寺子屋・牧野富太郎ふるさと館・名教館・司牡丹酒造などを見学
- ③昼食は大正2年創業の老舗、大正軒の鰻重
- ④名越屋沈下橋
- ⑤夕食・宿泊は道後温泉の大和屋本店。能舞台を臨む宴会場では、西窪正男先生のお呈茶の後、愛媛の海の幸・山の幸を堪能した。

[10月26日]

- ①ロープウェイで松山城へ（築城400年を超える松山のシンボル・天守は国内現存12天守の一つで最上階からの眺めは圧巻）
- ②昼食は今治国際ホテルで洋食

以上、盛りだくさんの行程を、参加者及び乗務員の方のご協力・ご尽力により無事終える事が出来ました。改めて感謝申し上げます。
（随行：事務局 横田）



①②高知県桂浜 坂本龍馬像前

③特別車両「青龍」と共に

④愛媛県 松山城前

⑤道後温泉 大和屋本店 能舞台前



令和6年12月の予定

※予定は変更になる場合があります

【火曜午餐会】第1、第3火曜日を定例に、12時15分から火曜午餐会、12時45分から定例講演会を開催します。

【火曜午餐会・忘年の会】

3日、火曜午餐会忘年の会を当部会議室で開催。

ゲストに奈良フィルハーモニー管弦楽団からヴァイオリン奏者 袴田さやかさん、チェロ奏者 西川彩乃さん、ピアノ奏者 岡野弥生さんをお迎えして、ミニコンサートを開催します。

17日（第2例会）は、休会します。

【観劇会＝文化啓発委員会】4日（水）、京都四條・南座で『吉例顔見世興行』を鑑賞します。

【囲碁会】14日（土）、15日（日）、21日（土）、28日（土）の4回、13：00～3階会議室で開催します。

【中国語会話教室】2日（月）、9日（月）、16日（月）、23日（月）の4回、10：00～5階小会議室で開催します。

【ハングル勉強会】2日（月）、9日（月）、16日（月）、23日（月）の4回、13：30～5階小会議室で開催します。

【無料法律相談室＝会員限定】

ご希望の方は、顧問弁護士と日程調整致しますので、事務局までご連絡下さい。

お祝い 秋の叙勲において、当部会員の春日ホテル代表取締役 増田友宏氏が、奈良県旅館・ホテル生活衛生同業組合理事長として、旭日双光章を受章されました。会員一同謹んでお祝い申し上げます。

年末年始 事務局は12月28日（土）～令和7年1月5日（日）まで休業します。

【令和七年 四団体合同新年名刺交換会】

令和7年1月7日（火）10時30分からホテル日航奈良で開催します。

県内経済情報

【概況】

2024年10月度の奈良県企業倒産件数（負債額1,000万円以上）は11件、負債総額は5億7,800万円だった。件数は3カ月ぶりに10件を超えた。負債総額は10億円を超える大型倒産は見られなかったが、前年同月比で増加となった。

【当月の特徴】

- *産業別…「建設業」「小売業」がそれぞれ3件、「卸売業」「サービス業他」がそれぞれ2件。
- *業種別…「建設業」が3件で最多。その他はそれぞれ1件であった。
- *原因別…「販売不振」が11件で全てを占める。
- *形態別…「破産」が11件で全てを占める。
- *資本金別…「個人企業他」が4件で最多。「5千万円以上」は無かった。
- *負債別…「1千万円以上」が7件で最多。「5億円以上」「10億円以上」は無かった。
- *従業員別…「5人未満」で9件となり殆どを占める。「5～9人」が2件と続く。

*その他…「新型コロナウイルス」関連倒産は2件。（判明分）。

【今後の見通し】

内閣府が10月に発表した「月例経済報告」によると、景気は「一部に足踏みが残るものの、緩やかに回復している」、先行きについては「雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される」「欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響など、海外景気の下振れ」「物価上昇、中東地域をめぐる情勢」について注意する必要があるとし、基調判断を据え置いた。政策態度は「デフレ脱却を確かなものとするため、『経済あつての財政』との考え方に立ち、『賃上げと投資が牽引する成長型経済』を実現していく」としたうえで、『物価高の克服』、『日本経済・地方経済の成長』、『国民の安心・安全の確保』を柱とした『総合経済対策』を早急に策定する」とした。

夏場にいったん落ち着きを見せた企業倒産は、ここにきて再び増加に

転じている。2024年前半まで倒産増加の要因の一つとなっていた「サービス業他」の発生が続くほか、「建設業」などにも増加の兆しが見られる点に注意が必要だ。また、政治経済状況の不透明感も懸念材料といえる。石破新政権発足後すぐに実施された10月15日公示の衆院選では与党が大敗。スムーズな政策や予算の決定・執行が危ぶまれる事態になれば中小企業の経営にも累が及ぶ可能性がある。国外に目を転じれば11月の米大統領選挙ではトランプ氏が4年振りに返り咲いた格好。緊迫の度を高める中東地域や中国経済なども含め、先行きの見通しはきかない。こうしたなか、引き続き構造的な人手不足や物価高が基礎体力に劣る中小企業を締め付けるほか、足元では再び150円台の円安となってインバウンド関連には追い風ながら、内需主体型となる県内企業においてはさらなるコスト高が懸念され、当面のあいだ企業倒産は増勢で推移する可能性が高い。

（㈱東京商工リサーチ奈良支店調べ）